

華岳山恩林寺発行



令和7年12月号

顛飽袋 762



写真：秋の無量寺（長野県塩尻市）



お寺へ行こう 和尚さんと友だちになろう

中山かんのん  華岳山 恩林寺

中山中学校下

☎506-0052 岐阜県高山市下岡本町2779

✉kagakuzan@onrinji.com ☎(0577)34-1245



<https://onrinji.com/>

野良着茶会記

十月最後の日曜日、長野県塩尻の無量寺様へ、東堂（前住職）様が席主をされる野良着茶会に招待され出かけてまいりました。

席主様は以前に紹介致しました横浜、総持寺の西堂を務められる曹洞宗第一の尼様です。



無量寺に在籍される慈正尼様とは懇意にしていただいておりますので、お言葉に甘え厚かましく仲間に入れていただきました。

あいにくの雨、それでも久しぶりの乗鞍越え、白骨温泉辺りまで

は、もう紅葉しており、心清まる思いでお寺に向かいました。

まず驚いたのは、沢山のお客を迎えるお茶会をおお寄せと申しますが、多くの社中の皆さんが整然とされ、しかも機敏に立ち振る舞いをされることや、受付、ご案内の係の方々の対応に感心いたしました。早速、お席入りがあり、ご挨拶をいたします。

お床は永平寺元管長、秦慧玉はたえぎよく老師のお筆、お道具は竹台子中置細水指でのおてまえ、季節にあった席にまた感動。

お礼のご挨拶もしどろもどろ。



そこは席主様がうまく助けてくださいます。

次に立礼席（椅子席）に通していただき、お薄（薄茶）を頂戴、その後、席主様のお弟子様たちの花展を見学。

このお寺は、席主、青山俊童あおやましゅんどう老師得度の寺であり、また名古屋において愛知尼僧専門道場の堂長として半世紀にわたり尼僧教育に携われた方と賜っております。

今回、このお茶会を通じて、老師様の教えをいただいた方々の動作はそれぞれ臨機応変。禅寺らしい雰囲気を感じましたことを感謝申し上げます。

また連客の諏訪からの先生、

群馬からの奥様、それに地元出身の尼僧のたまご様。

お初にお目にかかりました。

ご縁を心より感謝いたしております。

和尚の昭和、下岡本を語る

私事ながら、私の祖母は下岡本出身のこのここの地元人間でした。若いころは裁縫が好きで他人様の仕立物などを預かって仕立てるなどしていたようです。また、父親は丹生川村より養子に入った人でとても熱心なご門徒であったようです。祖母は若い頃、私の祖父から買ってもらった裁縫箱をいつも大切に身もの回りに置いておりました。晩年は持病のロイマチスに悩まされ不自由な手を

工夫をしながら雑巾を縫っていたことを思い出します。

裁縫箱は一見、

ミニタンスの様に

細かい細工が



施され一番上の針山のある個所は丁番になっており、隠し引き出しがあり、赤珊瑚の数珠が入っております。下の引き出しはそれぞれボタンの引き出し、あて布の引き出し、ゴム紐の引き出し、ハサミや糸巻きなどと、おばあさんの宝物入れといった仕様でした。町内には裁縫仲間も何人かあったようで村を歩いていると「ばあちゃん元気かな？」などと声をかけてくれる方もありました。実のお父さんの影響か、毎日朝夕、

お念仏を申す念仏ばあさんでもありました。



住職合掌

行く年来る年のご案内

12月31日午後4時

歳晚諷経

12月31日午後11時半

除夜の鐘

1月1日午前0時

歳旦諷経(新年のお経)

1月1日午前9時

下岡本三寺詣り

(新年互礼会)

歳末、新年、どうぞお寺へ

お出かけ

下さい。

御恩





【第四章 九節】煤払い

12月13日、萬福寺では煤払いが行われます。柄の長い箒を準備し、山門から法堂まで天井や屋根の隙間を

掃除して

いきます。

私たちは前日に準備をして眠りにつきました。

翌朝、同夏が私の布団に飛び込んできました。「雪が積もった！」

実際に見てみましたが、高山で過ごした私にとってはほんの僅か。

彼らは雪が降らない地域で過ごしてきたため珍しかったので



しよう。地域差を感じました。

そんな朝から始まった煤払いですが、上を向いた状態で行うため、とにかく首や肩が凝ります。落ちてくる埃が目や鼻に入り、顔は酷い状態…。

柄の長い箒に振り回されながら作務をしました。

埃を一通り落とすと、掃き掃除と拭き掃除に分かれます。

バケツの水に手を入れたくない私たちは

じゃんけんをしました。結局、負けた私は仏像の拭き掃除をすることに。



本尊様を拭いていると、地元新聞社の方から声をかけられました。「ぜひ写真を撮らせてください。」掲載されると思うと一気にやる気が出ます。

私たちが普段以上に動いていると、掃き掃除組がこちらにやってきました。

「僕らも拭き掃除するよ。」
「みんなで掲載されたかったのか。そんな邪推もしながらでしたが結局、同夏全員で新聞に載ることになった思い出深い煤払いの日になりました。」



華岳山 思林寺

住職 古田 正彦
新堂 小森 鳳雅

